

研究テーマ

「一人一人に応じた学習指導の充実と評価の在り方について」
 ～児童生徒に何が身に付いたかという学習の成果に関する教員間の共通理解を通して～

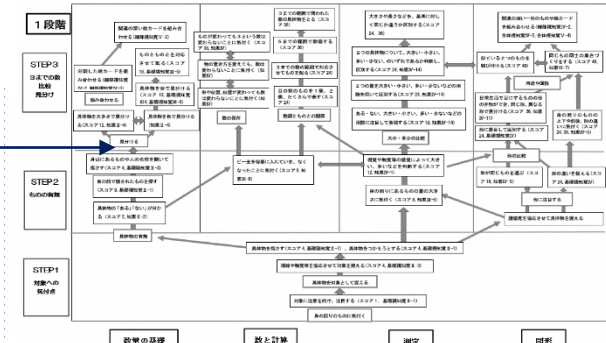
●目的

- ▶ 特別支援学校学習指導要領の基本的な考え方と方向性について理解する。
- ▶ 今日の肢体不自由教育の動向を踏まえた上で学習評価の基本的な仕組みについて捉える。
- ▶ 重度重複障害の児童生徒の学習評価について教員間で意見交換しながら考察し、評価の視点について共通理解を図る。
- ▶ 「自立活動主体の教育課程」の担当教員が抱えている困り感について情報共有しながら学習指導の改善を図る。

●研究の実際

① 「児童生徒の実態把握」について

- ▶ 参考文献A『知的障害のある子どものための国語、算数・数学「ラーニングマップ」から学びを作り出そう』（山元薫編著、シアーズ教育新社）
- ・ 国語、算数・数学について、ラーニングマップを試用し、児童生徒の一人一人の学びの状況をフローチャート上で捉えることでより明確な実態把握に結び付けることができた。



② 「学習評価」について

- ▶ 参考文献B『特別支援学校 学習指導要領 目標・指導・評価を一体化する「国語」「算数・数学」の学習評価』（新井英靖著、明治図書）
- ・ 「国語」「算数・数学」の目標に準拠した評価の実際について学んだ。
- ・ Ⅱコースに在籍する児童生徒の実態から学習指導要領の内容から目標を設定する場合が多く、目標に準拠した評価という点で日々の実践と結び付けることが難しかったが、評価規準や評価基準について捉えることができた。

③ 「授業実践シートの作成」と「一人一授業実践」について

- ・ 参考文献Bを基に「授業実践シート」を作成した。ことばかず（自立活動）及び国語、算数・数学を対象授業として「一人一授業実践」を行った。
- ・ 「一人一授業実践」について、PDCAサイクルに基づき、一つの単元の授業実践を通して、学習評価、授業改善と指導目標の見直し等の流れを確認しながら個人ワークを行った。
- ・ 本グループでは、授業の様子を映像で見ながら有効な手立てや教材教具の選定等について意見交換しながら共通理解を図り、授業改善につなげることができた。

学習者	学年	性別	障害	学習内容	学習状況
1	1	男	知的障害	国語「ことばかず」	学習内容の理解が困難で、単語の意味も分からない。学習態度も落ち着かず、授業中に机を叩いたり、走り回ったりする。授業の進捗も遅く、授業の終わりに泣いてしまう。
2	1	女	知的障害	算数「数の大小」	数の大小の理解が困難で、数直線も描けない。学習態度も落ち着かず、授業中に机を叩いたり、走り回ったりする。授業の進捗も遅く、授業の終わりに泣いてしまう。
3	1	男	知的障害	国語「ことばかず」	学習内容の理解が困難で、単語の意味も分からない。学習態度も落ち着かず、授業中に机を叩いたり、走り回ったりする。授業の進捗も遅く、授業の終わりに泣いてしまう。
4	1	女	知的障害	算数「数の大小」	数の大小の理解が困難で、数直線も描けない。学習態度も落ち着かず、授業中に机を叩いたり、走り回ったりする。授業の進捗も遅く、授業の終わりに泣いてしまう。

●研究の成果

- ・ 小学部・中学部のⅡコース合同で研究を行うことで、児童生徒の実態について新しい視点（アプローチの方法）を得ることができ、教師の授業改善につながった。
- ・ 「自立活動主体の教育課程」における教科等の指導について知見を広げることができた。

●研究の課題と次年度に向けて

- ・ 重度重複障害の児童生徒の学習評価について、最新の教育の動向と照らし合わせる等しながら、さらに理解を深めていく。
- ・ 「学びの連続性」「教科横断的な視点」を踏まえた上で教員間で意見交換を行いながら、年間授業計画や個別の指導計画等の様式についても検討していく必要がある。